

認可外保育施設における運営と活動実態の独自性に関する研究

RESEARCH ON THE ORIGINALITY OF MANAGEMENT AND ACTIVITY IN NONREGISTERED DAY-CARE FACILITIES

建築計画研究室 山本知佳

近年、共働き世帯の増加に伴い、多様な需要に応える保育施設の重要性が高まってきている。この1つとして認可外保育施設があるが、今年度から行われる新たな法律により、認可外保育施設の認可化が推進されると予想でき、保育の均質化が懸念される。そこで本研究ではアンケート調査、ヒアリング調査、行動観察調査を基に認可外保育施設の運営、空間構成、活動内容に着目し、実態を把握するとともに、運営の独自性や保育活動における交流の特性を明らかにした。

For the reason of an increase in Double-income family, a diversity demand for a day-care facility increases in recent years. As nonregistered day-care facilities serve it, a law came into by this year will decrease them and it is concerned about homogenizations of nurture. So in this study, it is given light on the originality of management and activity in nonregistered day-care facilities by questionnaire survey, hearing survey, and behavior survey.

1. はじめに

1-1. 研究の背景と目的 近年、共働き世帯の増加により保育施設の需要が高まり、平成25年10月時点で、厚生労働省の統計による保育所入所待機児童数は44,118人となっている。加えて認可保育所には入所要件があり、各市町村によって定められた項目より、「保育に欠ける子」とみなされなければ入所出来ない現状にある。雇用形態が多様となってきた今日では、入所要件に満たない世帯も増えていると予想でき、より多様な保育のあり方が必要になってきている。この多様性を受け止める施設として、認可外保育施設がある。無認可保育所ともいわれ、「無認可」という言葉の響きから、世間で保育の安全性を疑う人も少なくはない。しかし、入所要件が少ない事から子どもを預けやすいだけでなく、設置基準が認可保育施設よりも低く、比較的設置しやすいというメリットがある。平成24年8月に「子ども・子育て支援法」という法律が施行され、これと、関連する法律に基づき、平成27年4月から待機児童対策として「子ども・子育て新制度」が本格施行される予定となっている。この制度によって、認可外保育施設の認可への移行や対象年齢を下げた小規模保育の増加が予想でき、保育のあり方が変わっていくと予想される。

そこで本研究では、認可外保育施設の運営や保育活

動の実態を明らかにし、運営者の意向や施設に対する評価をみることによって、認可外保育施設の特色や傾向を捉える。そこから認可外保育施設における空間や運営の有用性を明らかにし、今後の保育のあり方について提起する事を目的とする。

1-2. 調査方法 本研究では、①近畿圏における府県庁所在地、政令指定都市にある認可外保育施設に対するアンケート調査(317通配布 回収率14%)、②認可外保育施設の運営者(一部保育士)へのヒアリング調査、③行動観察調査によって進める(表1)。

2. 運営特性

2-1. 設立背景 認可保育施設とは異なる保育が行いたいという意向から設立へ至る傾向にあった(図1)。事例A、Gにおいても、従来の保育施設とは異なり、共生型社会[1]や地域密着[2]に重点をおいた保育を行う為に設立に至っている。他にも保育施設不足等、様々な理由がみられ運営面での差異を生んでいた。

2-2. 開所日時 アンケートでは週4~6日の開所が58%と最も多く、次いで週7日が40%となった。施設種別毎にみると、ベビーホテルと店舗等を対象とした

表1 調査概要

事例	ヒアリング対象者	行動観察調査日	調査時間	調査時間内利用者
事例B	運営者	2014/12/16(火)	9:00~17:00	12名
事例G	運営者	2014/12/13(土)	9:00~17:00	17名
事例A	運営者 保育士	2014/12/11(木)	9:30~16:00	4名
事例H	運営者 保育士			
事例P	運営者 保育士			

一時預かり施設で全て週7日開所されている結果となった(図3)。開所時間では20時以降も開所している施設が67%あり、うち24時間保育が14%という結果となった。開所時間の評価(図4)は、24時間開所している施設において「長い」「長過ぎる」の回答が半数あり、スタッフ不足、採算が合わない他、子どものことを考えてもっと短くすべきであるという理由が挙げられた。一方で夜間の保育の需要も多い為、短いと評価している施設もみられた[3]。

2-3. 定員 アンケートでは20~39人が45%と一番多く、次いで6~19人が32%と少数の設定を行っている所が多かった。定員の設定方法は設置基準に基づいて定めている所が多いが、他にスタッフの人数や対応力を考慮して基準面積よりも少なめに定員を設定している施設もみられた[4]。定員に対する評価は適切が93%と多い結果となった。少ないと回答した施設は7%となり、その理由として経済的な問題や遊びに対する種類が少なくなるという意見がみられた。

観察調査では月極保育と一時保育間で1日の中での子どもの実人数に違いが見られ、月極保育では1日同じ子供が利用しているのに対し(図4)、一時保育では短時間で子供が入れ替わっていた(図5)。

2-4. 対象年齢 小学校就学前の幼児を対象としている施設は42%となっており、小学生も対応した施設が35%という結果になった。幼稚園未就園までを対象としている施設は23%となった。設定理由として静かな所での保育を望んでいた[5]、小学生は休日や週末といった小学校の休みの時の需要がみられた。

2-5. 利用料金と手続き 料金は施設が独自に設定する為、月払い以外にも利用時間ごとの設定等、施設によって異なっていた。手続きは直接施設と行うことから、簡易化等の工夫がされていた。

2-6. 集団編成 編成方法が複数という回答が全体の39%となり、全体で1つが39%、個別対応が22%となった。集団編成が集団がある施設において、編成方法が変化する施設は63%となり、認可外ではクラス等で完全に分けた編成ではなく、子どもの状態に合わせたり[6]と柔軟な集団編成をとっていた。

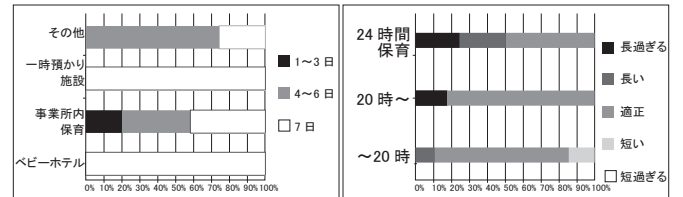


図2 施設別開所日数 [n=43]

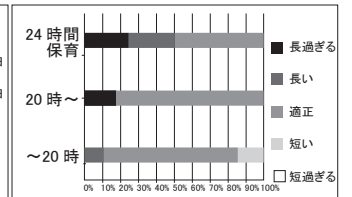


図3 開所時間評価 [n=43]

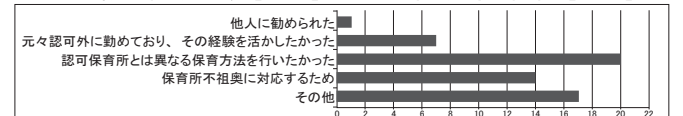


図4 設立理由 [n=43]

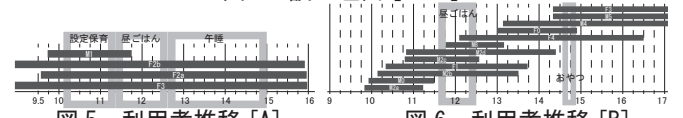


図5 利用者推移 [A]

図6 利用者推移 [B]

- 表1 運営特性 <ヒアリングより>**
- [1] 【共生型社会】 いろんな人が集まって問題を解決していくのが大事なんじゃないかって、あるNPOの講演会を聞いて漠然と思ってね。／事例A
 - [2] 【地域の受け皿の必要性】 前に訪問看護をやっていた育児とか介護とか色々な問題があって、相談窓口というか、困った時に相談する人がいないし、困った時・緊急の預かりが中々ないし、場所もなければ、地域の中にいないと相談しにくいよね。そういうので、受け皿みたいなのがあったら良いんじゃないかって漠然と思ってたんですね。／事例G
 - [3] 【24時間対応】 病院も当日の朝ですね。病院がやってはる所は当日中々受け入れがなかったり、8時半からしかやってなかったり。うちやったら7時から開けているので、もっと早い時にはそれに合わせて調整しますね。携帯に転送して24時間電話を受けているのね。／事例G
 - [4] 【定員】 本来は国の方の基準では定員20名近く行けるんですけど、スタッフの対応力の問題で同時帯10人でやっています。／事例B
 - [5] 【対象年齢】 大きい子とどうしても賑やかな中で過ごしていることが多いので、もう少し静かな所で遊べるような保育がしたいなって思っていました。／事例H
 - [6] 【集団編成】 外で過ごすのを企画したりしてローテーションとか。基本一階で保育します。で、小さい子だと二階にあげてっていうときもあるし。／事例G
 - [7] 【多世代交流】 日常的にお互いの顔と名前が分かるような関係が良いと思う。／事例A
 - [8] 【個々に応じた保育】 とにかく丁寧に可愛がって感じます。ご家族の事情に沿ってことを大切にいて、子どもの楽しい場所であるっていうのはもちろんなんですけど、個別事情に合わせてっていう方針です。／事例G
 - [9] 【家庭的保育】 家にいる感じです。お母さんがこうやって喋っても遊んでたり。／事例H
 - [10] 【働くきっかけ】 認可園では行事とかに追われて日々をこなしていくだけの保育で、子どもや保護者の立場に立った保育サービスがしたいと思っていてたので認可外の施設で働きたいと思いました。認可園では先生が子どもへの対応に気がはって怖かった。／事例H(保育士)
 - [11] 【生きがい】 定年してもどこ来たらかかあるって聞いたんです。来ましていうのは多いです。小さい子と触れ合っている活動することで生きがいを見つけていただいで、そこに収入がついてくるっていう感覚で働いていますね。／事例B
 - [12] 【個々に合わせた保育】 とにかく丁寧に可愛がって感じなんです。ご家族の事情に沿ってことを大切にいて、子どもの楽しい場所であるっていうのはもちろんなんですけど、個別事情に合わせてっていう方針なんです。／事例G
 - [13] 【高齢者スタッフとの交流】 お年寄り(スタッフ)と触れ合う事が良いという保護者の方が利用されているんですね。お年寄りの独特の能力とか、対応の仕方とかいうのを発揮した保育って言うのを重視しています。おもちゃはある程度揃えていますけど、何もなしだからおばあちゃんに触れ合って遊びを作り上げて遊んでいただくとかで独自性を出しています。／事例B

	事例B	事例G	事例A	事例H	事例P
所在地	京都市中京区	京都市中京区	大阪市生野区	京都市北区	京都市下京区
事業開始	平成14年5月	平成16年9月	平成25年4月	平成21年5月	平成8年9月
保育室面積	40㎡	35㎡	10㎡	40㎡	52㎡
定員	10名	無し	10名	15名	無し
保育時間	無休 (12月31日~1月3日、定期全館清掃日は休業) 8時~21時	無休 (7時~22時(宿泊有))	月~金(祝日含む) 8時30分~16時 (延長保育~17時30分)	月~土(祝日含む) 8時30分~16時 (延長保育~17時30分)	月~金(他要相談) 8時~18時30分 (宿泊有)
対象年齢	0歳~9歳児(小学3年生)	0歳~小学生	0歳~6歳児	0歳~3歳児	0歳~小学生
間取り					
保育事業	一時保育	一時保育、病児病後児保育	月極保育、一時保育	月極保育、一時保育、病児病後児保育	月極保育、一時保育
備考	シルバー人材センターが運営。スタッフが高齢者	長屋を改修した小規模多機能施設	デイサービスと複合している	デイサービスと隣接している	テナントビル3階に立地

図1 施設概要

2-7. **スタッフ編成** ヒアリング5事例全てにおいて元々認可で働いていた保育士が働いていた。認可外で働ききっかけとして、認可では行事を行わなければならない環境にあり、それをこなすあまり子どもと向き合う時間が少なく感じていた為、制度の緩和された認可外で働く例がみられた [10]。ここから認可外では保育士にとって、子どもと向き合った保育を行う事が出来ていると考えられる。また、認可外では設置基準により保育スタッフの有資格者の数が緩和されている為、保育士を目指す学生や定年退職した後の保育士や、保育に携わる仕事がしたいと思う人が登録スタッフとして働いている例がみられ [11]、スタッフ自体にも弾力性があった。

2-8. **スタッフ数** アンケートでは、「適切」が66%となり、次いで「少ない」が24%となり、「少な過ぎる」が2%となった。「多い」が5%となり、「多過ぎる」が3%となった。少ない評価の意見として早朝、夜間保育にあたるスタッフの不足や、事務員の必要性、また、非常勤が多いため、常勤の勤務時間が長くなり、負担が増えるといった意見がみられた。多い評価では、教育に特化した人材の必要性、子どもの数の変動に対応するため多く配置しているという意見がみられた。ここからスタッフは全体的に不足している問題があり、英語教育等独自のプログラムを行おうとするとスタッフ数が多く必要になることが分かった。

2-9. **保育方針** アンケートにおいて、大きく①多世代交流、②個々に応じた保育、③家庭的環境④英語等の教育特化、⑤自立性⑥安心安全における方針が挙げられた。①においては保育スタッフや高齢者施設との複合化によって子どもは日常的に高齢者との関わりを持っていた [12]。②では運営面においても保護者の意向に沿うように開所時間や手続きの方法をとっており、保育方針においても1人ひとりを可愛がり、個別に対応することを目指していた [13]。③において家にあるようなくつろいだ場所で保育を行うことを方針としており、一日の流れに違いが生まれていた。

3. 空間特性

3-1. **建物選定理由** アンケート (図7) では「保育に適した建物があったから」が一番多く、建物の選定は内部の保育空間の充実を重要とする傾向があった。建物は「所有」30%、「賃貸」68%となり、賃貸での利用が多いことが分かった。

3-2. **保育空間の要望** アンケートで大きく①家庭的②開放的③集中できる場④安全性⑤自然との触れ合いに対しての要望があった [14] [15]。

3-3. **用途転用** 既存の建物の活用が全体の72%となり、元の用途 (図8) は、「保育所・幼稚園」が6%

に対し、「戸建住宅」が22%「集合住宅」が16%と住宅の転用が多くみられた。事例Gでは、はじめにの改修を行い、その後必要に応じ防音対策や遊び場をつくっていった [16]。また、状態によって水廻りの改修のみで活用する例もあった [17]。

3-4. **複合化** 建物は「貴施設のみ」が37%で「他の施設と複合」が63%となっており、他の施設との複合施設の方が多く結果となり「住宅」「学校」「店舗」「病院」「オフィス」といった用途と複合していた。

3-5. **建物の室機能と評価** アンケート (図9) で「子供用トイレ」が最も少ない23%となり、次いで「ほふく室」が35%、「プレイルーム」が40%となっていた。園庭の保有する施設は43%と半分に満たないことが分かり、全体として子供の遊ぶスペースが保育室のみで行われている傾向にあった。

建物に対しての評価は、広さに対しては、「適切」が64%、「狭い」が26%、「広い」が7%、「狭過ぎる」が3%という回答になり、適切が多いものの、狭いと評価する割合が高い事が分かった。狭い理由には、事務スペースがとれない、年齢によって狭くなる、開口部による圧迫感があげられた。広いと評価したものには、テナントである為、求めていたものより広がっていたり、定員に実人数が達していないといった理由があげられた。部屋数では、「適切」が65%、「少ない」が32%、「多い」が3%という結果となった。少ない理由として自由度の高い部屋や異年齢を分ける部屋といったものが求められており、多い理由としても実人数が少ない事があげられた。外部空間の評価では、「適切」が52%、「悪い」が24%、「とても悪い」が6%、

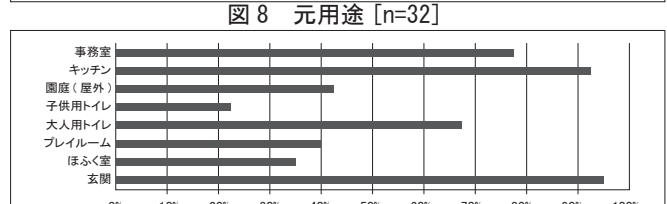
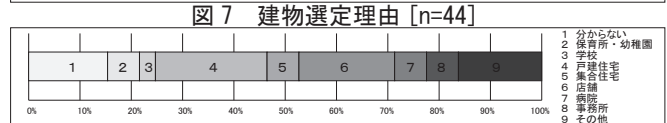
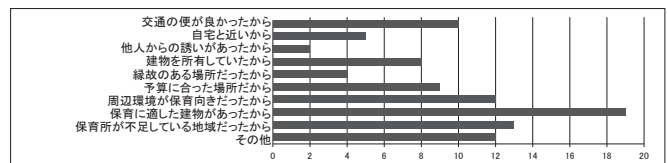


表2 空間特性 <ヒアリングより>

- [14]【民家で人間関係の構築】民家で保育を行い、人間関係を大事に築けるような施設にしたかったです。／事例A
- [15]【家庭的な空間】昭和初期の木造の小学校みたいなイメージで、やるんだったらそういうのがいいなって。田舎の大家族で育ったんで。親戚のうち遊びにくる感じの普通のお家が良いし、風が吹き抜ける感じがいいなっていうのでお願いしたんです。京都なんで、一軒家っていうのは町屋を紹介されるので。／事例G
- [16]【長屋の転用】下と2階のフローリングを変えただけで、奥はぼろぼろだったんです。でも後でエアコンがいるかなとか換気扇を付けたりとか、隣がうるさかったので防音にしたりとかです。2階の奥は半年後にしたんかな。で、また半年後とかにプランコ付けたり／事例G
- [17]【空き家活用】ちっさい和室がありまして、乳児さんの午睡室ということでやって改修はほぼしてないです。水廻りや窓は少し整えたりはしましたが、建物としてはもう、壁とかは全くいじってないです。元々整っていたっていうのはあるんですけど。改修もそんなに大がかりではなかったです。／事例B

「良い」が6%、「とても良い」が12%という結果となった。評価の悪い理由として、園庭の有無、騒音への配慮、防犯の不安といった理由があげられ、全体として園庭の有無が評価に大きく影響していた。

3-6. 機能の配置 ヒアリングを行った5施設では、機能の配置に傾向がみられた。

①機能分離型 各諸室に機能が定められており、別の行為に気が散りにくい為、行為に継続性がみられ、午睡等も行いやすいメリットがあるが、特定の行為が行われない時には使用されず、使用する際には管理するスタッフが必要であるデメリットがある。(事例B)

②機能一体型 諸室に機能が定められておらず、部屋に柔軟性がある。その為、利用する子どもに合わせた部屋の使い方が出来、常に施設の空間を活用出来るメリットがあるが、午睡する子どもと遊ぶ子どもが同じ空間を共有する。(事例G.H.P)

③機能補完型 基本的に機能が一体となって空間を利用されているが、不足分を他施設等、別の場所で補完する事で保育活動を柔軟に行う事が出来ている。これは他施設との協力が必要ではあるが、常時必要とされない機能を一時的に補完できる。(事例A)

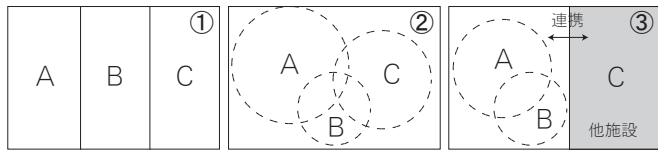


図10 機能の配置

4. 保育活動

4-1. デイリープログラム 1日の保育活動において、月極保育と一時保育では異なる流れになっていた。前者では設定保育や午睡の時間を設ける等、生活リズムを付けることを大切にしているが、子どもの様子を見て柔軟な対応をし[18][19]、後者では利用者が変則的であるため、食事やおやつの時間以外は設定せずに保育活動を行っていた[20]。

1) 設定保育 事例Aでは異年齢少人数での保育を行っており、殆ど1対1でスタッフがみている為年齢によって差がでる事も各々の発達段階に合わせて取り組むことができていた。

2) 自由保育 続き間で構成されている事例Gでは子どもが自発的に場所を変え、遊びに発展をもたせていた(図11)。事例Aではデイサービスの取り組みに子どもが参加して過ごす例もみられた。

3) 食事 食事の方法は①施設での調理②お弁当③配食サービスの3種類があった。事例Gでは①をとっており、子どもの好きなものを楽しく食べることを重視しており、メニューは当日にスタッフ同士で話し合い決めていた。作りおきをしている物も使い、人数の変動に対応していた。③を利用している事例Hでは、メニューはセンターに決められているものの、同じ団

体で運営されているため、当日に具合の悪い子がいれば、メニューを変更してもらおうといった急な申し出にも対応がとられていた。

4) 午睡 異年齢保育において生活リズムに差が出る為、午睡室を設けている事例Bではスタッフが子どもの様子を見て午睡室を使用し午睡をとっていた。事例Gにおいても午睡の時間を設けていなかったが、午睡室を持たない為、眠くなった際は窓際に布団を敷き、起きている子どもと同じ空間で午睡をとっていた。事例Aはデイケア施設が複合している為、保育室と同じ部屋で午睡を行うが、眠れない子はデイケアの部屋で過ごし、眠になったら戻るようにしてそれぞれの生活リズムを壊さずに保っていた。このように、午睡を行うか否か、午睡室を持っているか否かによって午睡の様子や午睡に対する工夫点が異なっていた。

4-2. 子ども同士の交流 行動調査において年齢によって異なる交流がみられ、活動量の多い空間において生まれる傾向にあった。

1) 同年齢 幼稚園未就学児(0~3歳)、小学校未就学児(3~6歳)、小学生の間には異なる交流方法が行われており、幼稚園未就学児同士では個々の場の共有や真似による副次的交流の傾向があり、交流も単発的であった(図12)。小学校未就学児同士では言葉による意思疎通ができることから一緒に遊ぶ感覚はあるものの、自分主体で遊ぶ傾向にあった(図13)。小学生は相手を待つ行為や、一緒に遊ぶことで遊びの内容を変更していることから、遊びを共有する傾向があり、

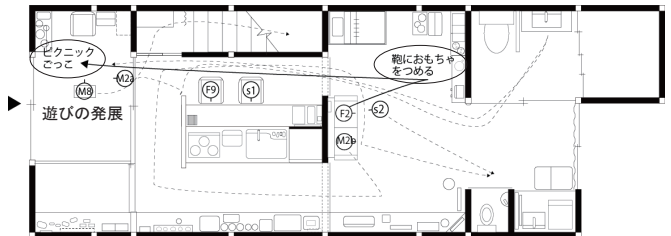


図11 遊びの発展/[G]

表3 保育活動<ヒアリングより>

[18]	【設定保育①】一応しているんですけど、無理にやらせる事はないです。/事例A
[19]	【設定保育②】生活リズムをつける為に行ってるんですけど、集まって歌唄う年齢ではないので子どもからでた言葉で唄ってみたりとかでプログラムを立ててはいないです。/事例H
[20]	【設定保育無し】受け入れ時間帯がばらばらなものですから、そうなると中々カリキュラムをつくり用が無く、ある程度決まっているのはお昼、夕ごはんの時間帯であとは好きなようにおばあちゃんスタッフがやっている。/事例B
[21]	【異年齢保育】家では末っ子やけどここではもっと小さい子どもの面倒みたりとか、小さい子は、大きい子がトイレ行ったら、自分も行かなくてという刺激があったりとかして。他の子が食べていると、自分も手を出したり、家では食べさせているけど、ここではちゃんと手づかみに自分で食べるよとか。/事例H
[22]	【乳児の行事】運動会時期に近くの幼稚園とかの運動会に見学に行ったりとかですね。クリスマスもデイの方がサンタの格好をされて、一緒にクリスマスで音楽をならしたり飾り付けをしたりして。私は認可園に働いていて、乳児にとって行事ってそんなに必要なのかなとか、園全体の流れにあわすのが本間に大事ななかとか疑問に思っていました。/事例H
[23]	【一時保育の行事①】してはいるんですけど、ごはんのメニューとかですね。水月を作ったりとか七夕飾りとか、地蔵本に連れていったり土間で花火を夏にしたりとか。/事例G
[24]	【一時保育の行事②】クリスマスに飾り付けをして手作りのプレゼント、折り紙のきれいにあったやつを用意しておばあちゃん子ども達でツリー飾りついたり雰囲気だけは出している。いつもご利用してくれてる方なんかは、告知はしておりますので預かりとか関係なく保護者の方と来ていただいて遊んでいただくという事はやっています。/事例B
[25]	【高齢者との交流】おやつの場合はデイの人が食べていて、子どもさんにどうぞっていうのがあるんで、ピスコとかそんなやつたら喜んで頂いておやつの時間に皆に分けてあげたりとかはしますね。特定の子が来る日が楽しみで来てないかって聞いたりしてきてね。/事例A

表4 提携先と内容

提携先	内容
近隣の幼稚園	運動会等行事の参加見学、園庭解放、合同保育、保育のアドバイス
保育所	卒園後の優先枠、経営委託、送迎
同系列の幼稚園	人材支援
中学校	行事の際に場所を借りる
グループホーム	高齢者とのふれあい
区の保健師	子どもの係つ医者や先天性疾患の主治医のやりとり
全国の病児保育室	年1回の研修、意見交換
小児科	児童発達支援事業、確認連携

長期的に一緒に遊んでおり、同じ施設内であっても年齢によって異なる交流がみられた。

2) 異年齢 小学生と幼稚園未就学児において、小学生はスタッフと同様に世話をしたり、年上としての自覚をもって接する関係にあった。幼稚園未就学児と小学校未就学児においてはスタッフの真似をしたり、小学校未就学児も年上としての自覚を持ちながら接していた。小学生と小学校未就学児においては小学生の憧れを持っての行為がみられ、いずれの年齢に対しても相互に影響を与えていることが分かった [21]。

3) 空間の特徴 事例Gにお事例Bにおいても同様でいて2歳児1人がキッチンの周りを走り回るともう一方も後を追いかけてたり、ソファで遊んでいる子どもの真似をして同じ遊びを始める行為もみられ生活のリズムも同じ為施設としてはタイムスケジュールを組んでいなくても交流がみられた。

4-3. スタッフとの関係性 事例Gでは家庭的な保育を目指していることから、キッチンでごはんをつくりながら子ども達と世間話をしたり (図14)、またスタッフが小学生に対して幼児の世話を頼んでいた。ここから、先生の関係以上に密な関係を築く事ができていた。

4-4. 行事 内容は月極保育施設と一時預かり施設において異なっていた。小規模の月極保育では、運動会を室内で行ったり、他施設と連携して人数を補うといった工夫がみられた [22]。また、施設を解放して積極的に地域の人と関わる機会ともなっていた。一時預かり施設では利用者が変動する為、季節ごとに設えや食事メニューを変えて季節を感じるといった、当日に対応できる方法をとっていた。定期的に利用する人には告知をして手作りのプレゼントを用意して渡すといった行事を行っており、一時預かり施設であっても顔見知りの子どもに対する取り組みも行っており、施設の運営方法によって行事の取り組み方に差がみられた [23][24]。

4-5. 他施設との連携 他施設との連携をとる施設

表5 交流内容と交流場所

G	F9	M8	M2a	M2b	F2	F1	M4	M5	F7	F8	M3a	M0	M3b	M3c	F5	F0a	F0b
F9		a.b.c	a.b	c	a.c				a			c					
M8	○		a.c	a.c	a	a		c		a.c.d	c	c					
M2a	○	○		a.b.c	c	a											
M2b	○	○	○		a	a											
F2			○	○		a.c						c					
F1	○	○	○	○													
M4							a				a	a			a	c	
M5		○									a	a.c		c	a.b.c	c	
F7	○																
F8		○									a						
M3a		○															
M0		○	○													a.c	
M3b																	
M3c																	
F5																	
F0a																	
F0b																	

は全体の35%であり、保育施設、学校、グループホーム、医療機関との提携がみられた。内容は①世代間交流、②場の補完、③情報交換、④施設の優遇がみられた。事例Aではデイサービスと複合している為、日常的に交流が生まれていた (図15)。また、日常的な交流は子どもだけでなく高齢者にとっても施設の楽しみ

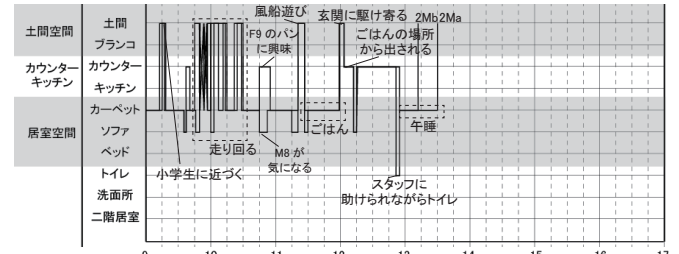


図12 2歳児同士の交流 / [G]

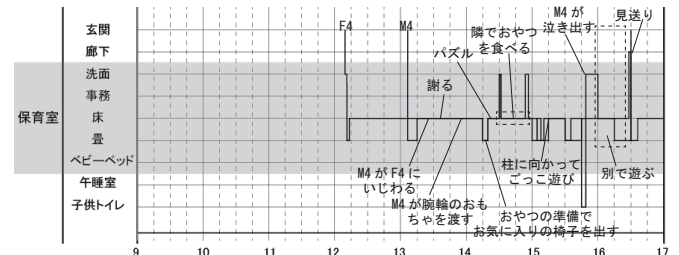


図13 4歳児同士の交流 / [G]

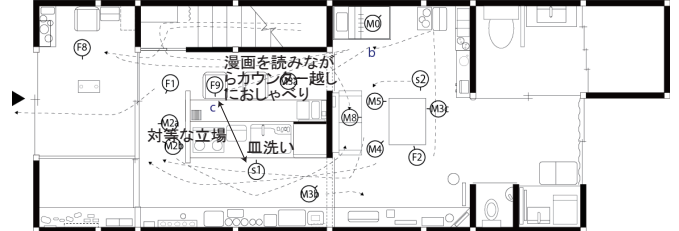


図14 スタッフとの関係 / [G]

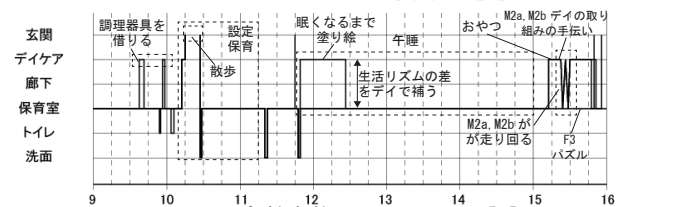


図15 高齢者施設との関係 / [G]

表6 保護者との関係性 <ヒアリングより>

[26]【広い利用者層】 京都なので旅行者の方とか、学校も多いので大学の先生とか。あと留学生のお子さんがいらっしやる方とかネットで知って利用される方もいます。／事例G
 [27]【物的支援】 いらなくなったので、おもちゃを保護者の方が下さる事もあります／事例P
 [28]【近い立場での交流】 保護者との交流は送り迎えの時と、連絡帳ですね。行事としてやる時もあったんですけど中々全員が参加できる事って少ないので。普段は送り迎えの時に話す事が多いですね。特に追い立てることもないし、それぞれスタッフも子育てを経験したりするので、今いるスタッフも育ててやってきているし、色々な立場で会話をしたげられる。先生の上からの会話でなくて、同じ子育てしてきた先輩やないけど。／事例H
 [29]【何でも話せる関係】 グチとかを色々吐き出してもらってね。仕事の話とか子どもも家ではやんちゃでもう疲れるわとか。幼稚園どうやって決めたら良いかわからないんですけど、アドバイスくださいとか長い時とか30分位喋るね。／事例P

A	F3	M2a	M2b	M1
F3		a	a	a
M2a	●		a.b	a
M2b	○	○		a
M1	○	○	○	

B	M2a	M0	M2b	F1	M2c	M2d	M8	F4	F0	M4	M5	F3
M2a		a.b	a.b	c.e	a	a						
M0	○											
M2b	○											
F1	○											
M2c	○											
M2d	●											
M8	○											
F4	○											
F0	○											
M4	○											
M5	○											
F3	○											

○: 遊び、世話 [A] a: 保育室
 ●: ケンカ、トラブル b: デイサービス
 ▲: 上記両方 [B] a: 保育室
 ○: 上記両方 b: 畳コーナー
 [G] a: 土間空間 c: 事務コーナー
 b: カウンターキッチン d: 廊下
 c: 居室空間 e: 洗面
 d: 2階居室

になっている為、両施設において効果があった [25]。

5. 保護者との関係性

5-1. 施設の利用理由 保護者は保育方針に賛同して施設を利用していると考えられ、全体として保育の内容についての賛同によって保護者が施設を利用していることが分かった (図 16)。認可施設の空きがなく、第 2 希望として入所することもあり、変則的な時期に入所してくることもあった。一時預かりにおいては広報活動に力を入れ利用者を広く受け入れる施設もあり、運営の柔軟性も利用理由として挙げられた [26]。

5-2. 保護者からの支援 保護者の支援は「遊具の寄付や物的支援を受けている」が一番多くなり、使わなくなったおもちゃを譲り受ける等がみられた [27]。

5-3. 交流内容 保護者との会話の内容は、子どもについての相談が多くみられた。降園の際に保護者の方から気になった事を聞いており、保育経験者の先輩としてアドバイスをすることが多くみられ、施設での子どもの行動から家庭での保育のアドバイスをしていた。また、育児の相談以外にも保護者自身の愚痴や幼稚園への入園を希望としている保護者は保育スタッフに対し、園を選ぶ為のアドバイス等保育に関するアドバイス以外の会話もみられ、保護者と保育スタッフ間で深い交流がもてる事が考えられる [28][29]。

6. 地域との関係性

地域との関係性 (図 17) について、71% が「普通」と回答し、次いで「良い」が 26%、「とても良い」が 3% となった。

評価別に地域との関係 (図 18) をみると、「とても良い」と回答した施設は「保育のお手伝いをしてもらっている」と回答する割合が高くなり、反対に「普通」と回答した施設は「特に意識したことがない」と回答する割合が高くなった。ここから、意識的に保育の手伝いに介入してもらうことで地域との良好な関係を築くことが出来ると窺える。

7. 認可外保育施設における展開と課題

設立理由と認可との違いでは、一番多かった「認可保育所とは異なる保育方法を行いたかったから」の回答をした施設は「認可では出来ない様な柔軟な保育は行えている」という項目が一番高くなっていった。ここから設立時における意向が、設立後も保育に活かされている施設が多いと考えられる。

今後の施設で取り組みたい事について、大きく①施設の充足、②保育活動の発展、③交流、④行事、⑤運営面での充足の 5 つの傾向がみられた。しかし、金銭面、人材確保、情報交換、時間確保の点で現状に課題もみられ、施設の発展には支援が必要な現状である (表 7)。

8. まとめ

本研究では認可外保育施設における運営や活動の実

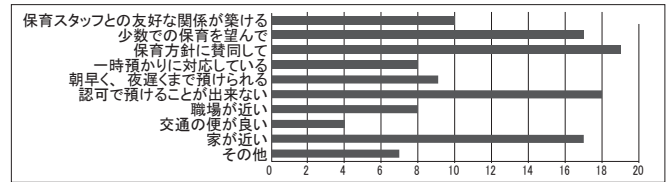


図 16 保護者の利用理由 [n=42]

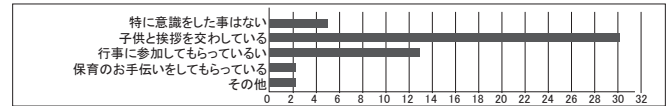


図 17 地域との関係性 [n=40]

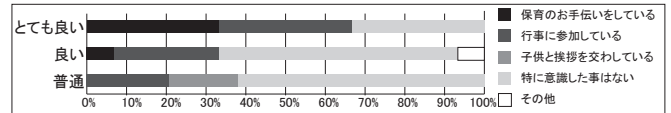


図 18 地域関係と評価 [n=39]

表 7 今後の意向と課題

今後の意向	内容	主な課題
① 施設の充足	園庭、バス、畑の設置	資金不足
② 保育活動の発展	病児保育の遊びの発展、食事内容の充実	周囲の認知、スタッフ不足
③ 交流促進	高齢者施設との関わり	施設間の付き合いが希薄
④ 行事の発展	バザーのやイベント開催	時間、保護者が集まらない
⑤ 広報活動	病児保育の認知、広報活動の充実	広報を行う場の不足

態及び運営者の意向を明らかにすることによって、認可外保育施設の現状を把握し、有意性の考察を行ってきた。

1) 運営者の意向の反映

定員や対象年齢、手続き等の運営面を独自で決定出来る為、運営者の意向が反映されやすく、他施設との個性化を図ることが出来る。

2) 『施設らしくない』保育施設

用途転用や複合施設が多くみられ、住宅や店舗等の構成を活用しており、従来とは異なる保育空間を形成し、子どもやスタッフに安心感や親密な関係を築いている。

3) 多様な交流

保育を行う施設において、幼稚園未就学児、小学校未就学児、小学生の年代各々に異なる交流がみられ、異年齢保育は幅広い交流をとれることが分かった。また、制度の緩和より幅広い保育スタッフがおり、マニュアルとは異なるスタッフ自身の経験や意向に則した保育が行われる。

4) 連携による保育の発展

認可外保育施設では他施設や地域、保護者と協力し、友好な関係を築く事で、スペースの補完、物的支援、情報交換や行事等の活動発展の為の不足を補う事が可能となる。

以上、運営、空間構成、活動内容について認可外保育施設は認可とは異なる独自の保育が展開されていることが分かった。課題を解決し、多様性と独自性をもつ認可外保育施設の運営や活動を尊重、継続していくことが保育の発展に繋がる。

参考文献： 1) 谷口元，竹内佑里，恒川和久，太幡英亮：都市部の認可外保育施設における表出に関する研究，日本建築学会大会学術講演梗概集（関東）2011.8 2) 山田あすか：小規模保育拠点運営者による子育て環境としての都市環境評価に関する研究-京都・屋間里親と大阪・分園制度を対象として-，日本建築学会大会学術講演梗概集（東北）2009.8 3) 赤木徹也，坂東愛子，河瀬友香：保育所における園児の異年齢交流を促す環境要因-縦割り保育が園児の異年齢交流に与える有効性に関する研究 その1-，日本建築学会大会学術講演梗概集（九州）2007.8 4) 赤木徹也，河瀬友香，坂東愛子：保育所における園児の異年齢交流を促す環境要因-縦割り保育が園児の異年齢交流に与える影響特性に関する研究 その2-，日本建築学会大会学術講演梗概集（九州）2007.8

討議

に対してもまずは補助金を出して支援していく必要があると思います。

討議 [倉方俊輔准教授]

認可外という、今話題になっているテーマを論文に取り上げたのは良いと思います。調査内容をみていて、無認可での運営や取り組みを色々やっているのは分かったんですが、発表を聞いていると、時間がなかったのかもしれないけど結局認可を補う為のものに聞こえてしまう。無認可だからこそ良さっていうのはなかったんですか。具体的じゃなくて、もうちょっと抽象的に、無認可の特徴とかを分類して。もうちょっと結論の書き方は考えた方が良いでしょう。スタッフの話も、資格のない保育スタッフ、専門性がある事のメリットデメリットをまとめてほしい。結論をみていると書かれている4つのことがかぶってるようにも思える。調査の中で分かったことがあると思う。まだ原石がいっぱい有るような気がするから、まとめと拵げ方をもう少し変えた方が良いでしょう。

回答

スタッフについてなんですけど、無認可は保育スタッフの基準が緩和されているので、保育士の資格をもっていなくても色んな人がスタッフとして子供と関われる事が特徴だと言えます。例えば事例Bでは定年退職したおばあちゃんとか、事例Gではこれから保育士になろうとする学生が保育に関わる例がみられました。なので子どもにとっては幅広い大人達と関わる事が出来るのが認可とは異なる点だと思います。まとめ方は確にかかぶっている所もあるので、考え直したいと思います。ありがとうございます。

討議 [佐久間康富講師]

無認可の良さっていうのは何となく感じたんですけど、じゃあ僕が行政の人だったとしたら、政策としてどうすればいいと思いますか。どういう所を残していくべきだと思いますか。

回答

今年度の政策で、小規模の場合0歳児から幼稚園未就学児を対象施設のみに補助金を出すようになっていて、ここから3歳児から小学生は小規模じゃなく集団で保育することが好ましいという傾向になっていっているといえます。だけど実際に行動観察調査で異年齢保育の交流をみると、それぞれの年代によって異なる交流があったことから、施設全体で幅広い交流がみられ、どの年代にとっても良い影響があると思っています。なので行政はこういった施設